

## 令和6年11月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	13	議席 番号	17	氏名	渡 辺 佳 正 議員	1 / 1
発言項目				要 旨		答弁者
1				<p>(仮称) 富士宮市立郷土史博物館の基本計画策定に進む前に、基本構想に対する市民の疑問や意見に答えて、市の明確な方針を示すべきと考える</p>	<p>(1) (仮称) 富士宮市立郷土史博物館基本構想について、市民の理解を得るための予算を組まなかった空白の3年で、基本構想(第4章以降を含む。)について市民の理解が進んだのか。</p> <p>(2) 基本構想に対する有識者、市民、議会の質問・意見に対して、以下の点について市の検討状況や方針を明確に示すべきと考えるが、どうか。</p> <p>① 基本構想で示している以外の建設候補地についての検討状況。</p> <p>② 収蔵・調査研究施設を先行整備するかどうかの方針。</p> <p>③ どの郷土史博物館にもないような富士宮市独自の『テーマとストーリー』を打ち出していくことの方針。</p> <p>(3) 上記の条件が整って基本計画策定に進むとしても、今日の社会情勢では少子化対策、子育て支援対策、物価高騰から市民の暮らしを応援する政策などが地方行政の優先課題であることは言うまでもない。財政の全体的バランスを考慮し、来年度以降の予算で、これらの優先課題に対してこれまで以上の財政措置を講じるべきと考えるが、市の認識を伺う。</p>	<p>市長 副市長 教育長 関係部長</p>
2				<p>小規模特認校制度の実験的実施について</p>	<p>(1) 学校規模の適正化の進め方については、「地域・保護者の声を聞いて、通学区域の変更や学校の統合、小規模特認校及び小中一貫校の導入などさまざまな方法を検討すること」が富士宮市立学校のあり方検討委員会の提言内容である。北部地域の地域説明会で、人穴小学校のPTAから小規模特認校制度を利用しての学校存続を望む意見が出された。この声に応じて、小規模特認校の利用を望むこどもや保護者の状況を把握するために、今年度から市内の小学校に募集を開始して来年度から実験的に実施したらどうか。</p> <p>(2) 小規模特認校を実施するには、地域、学校、市が連携して、小規模校の良さと地域の特性を生かした特色ある学校づくりが求められる。そうした取組に向けて地域や保護者と協議を進めることについて、どう考えるか。</p> <p>(3) 小規模特認校は不登校及び不登校気味の児童生徒とその保護者にとっても選択肢の1つとなると思うがどうか。</p> <p>(4) 少子化・過疎化が進んでいる地域の人口増・活性化のために、行政として取り組んでいくこと(移住定住対策の充実・拡大、一次産業従事希望者に対する住居確保・就労・生活支援など)や小規模特認校希望者に対する通学支援策などを、今後の地域説明会で具体的に示していくことが必要だと思うがどうか。</p>	<p>市長 副市長 教育長 関係部長</p>